

平成26年度第3回野洲市総合計画外部評価委員会 会議結果

日 時：平成26年10月27日（月）午後2時30分～4時45分

場 所：野洲市役所 本館3階 第2委員会室

出席委員7名

（兵藤委員長、板倉委員、田中委員、豊田委員、中野委員、西川委員、松並委員）

○ 外部評価事業ヒアリング・意見交換の概要

- ・事業全体および26年度事業の進捗について（担当課説明）
- ・今後の事業および事業の方向性について（担当課説明）
- ・意見交換
 - *事業進捗を確認したうえで、事業課題の抽出を主に中間ヒアリングを実施

① 事業通番 6 学校教育の充実を図るための支援体制の整備特、別支援教育の充実と生徒指導の充実（教育委員会 学校教育課・ふれあい教育相談センター）

<今年度事業の概要、進捗の説明>・・・進捗度：予定通り進行中

- ・巡回相談員の各校園への派遣の実施、専門家チームの野洲幼稚園、中主小学校への派遣を予定。1学期末に「ひらがなチェック」を市内の小学1年生全員に実施。
- ・不登校生徒や学校不適應の子どもに対するベースシートを用いたケース会議、SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）による直接支援、小学校へのカウンセラーの派遣、心の悩み等の教育相談を実施した。

<意見交換>（○委員、→市回答）

- ひらがなチェックはどのように行っているのか。全体に対して行っているのか。
 - 滋賀大学教育学部が開発した方法で、プリントにして全ての小学校で実施する。全体的なもので、朝学習という授業が始まる前のウォーミングアップの5分間で行っている。
- オアシス支援員、相談員は減っている（56名→37名）がその補填として配置されるSSWの配置状況はどうか。
 - 昨年度までは国の緊急雇用促進事業の予算で各学校3名の支援員を配置していたが、市費での継続配置は厳しく2/3程度に縮小した。教員の技量向上とチームで支援できる学校の組織体制の見直しで対応しているが、支援が必要な子どもたちは増えてきているため、個別対応が可能な支援員の充実は今後も必要である。
- 不登校、いじめの問題について、先般、長浜市で児童虐待の事件が起こったが、野洲市ではどのように認識して取り組んでいるのか。
 - いじめは子どもの命に係わる問題として認識している。いじめにつながりかねない些細なことでも学校は取り上げなければならないとの姿勢で臨んでいる。いじめを深刻化させないため、昼休みを一緒に遊んで過ごすなど、教員が子どもたちと関わる時間を大切に、早期発見に努めている。

② 事業通番 29 災害時要援護者の把握と対象者情報の共有化（健康福祉部 社会福祉課）

<今年度事業の概要、進捗の説明>・・・進捗度：着手したが予定より遅延

登録制度への取り組み自治会は6自治会と広がり少ないため、自治会独自の取組事例も紹介しながら、本登録制度の啓発を実施している。真に支援を必要とする要援護者を絞り込むため、高齢者世帯の対象年齢を65歳以上から75歳以上に上げた。また、災害対策基本法に基づく関係機関への要援護者名簿の提供について検討を進めた。

<意見交換> (○委員、→市回答)

- 住んでいる自治会で防災マップを作成した経験から、取り組みの必要性を感じる。昔からの集落や新興住宅地などタイプの異なる自治会での先進的なモデルを紹介する取り組みを事業に組み入れてはどうか。
→近隣自治会の取り組み事例や、実施されている防災訓練などの情報を提供しながら、取り組みの必要性を啓発していく。
- 取り組みの広がり妨げる要因はなにか。事務手続きの煩雑さもひとつだが、市民は目的・目標がわからないのではないか。これは野洲市のみの問題か。
→他の自治体も同様と考えている。野洲市の取り組みは他市より先進的であり、実効性のある制度とするため、地域での取り組みを基本としている。継続性のある仕組みとして定着するよう、丁寧に情報発信し、取り組みを拡大させて行きたい。
- 自治会からは民生委員の数の限られており、進め方が分からないとの声がある。自治会長も1年で交代する機会が多いなど自治会側の課題もある。ステップを進めるための方策はないか。
→民生委員、自治会長など個別の出前講座も可能である。相談していただきたい。

③ 事業通番 36 商工業振興指針具現化事業（環境経済部 商工観光課）

<今年度事業の概要、進捗の説明>・・・進捗度：予定通り進行中

平成26年度は指針具現化事業Bグループ(自然の魅力を活用)で、びわ湖周辺等への誘客の仕組みづくりなど近隣市、関係機関、関係団体との連携を重視した取り組みを進めた。今後は、独自に活発な事業展開をしている団体とより密接に協働する仕組みづくりを進める。

<意見交換> (○委員、→市回答)

- 観光事業は継続することがアピールとなり集客につながる。これと思うものは継続すべきである。また、蓼でもっとアピールできないか。
→テーマをしばった取り組みは有効であるため継続していきたい。ハイキングなどは継続しているが、バルなどを実行できる組織が育っていない。また、蓼は香辛料なので主役になりにくく、説明やアピールが難しいことに苦慮している。
- 近江富士、希望が丘などの自然だけではなく、歴史、伝統、文化、近代的な工場など野洲は魅力あるまちである。これらの要素をトータルに集めて発信できないか。
→平成36年には全国から人が集まる国体も開催されるため、アイデアを考えたい。

○次回会議日程について

- ・次回委員会は平成27年2月9日 13時30分から開催する。最終評価を実施する。